

2025－26年度

【RI 会長メッセージ】『よいことのために手を取り合おう』

【第2700地区ガバナーメッセージ】

『少しの成長から始まります！—1.01 で成長、0.99 で衰退—』

福岡北ロータリークラブ

club Vision

我々はメンバーであることに誇りを持ち、学び楽しみそして奉仕を率先し、
活力ある明るく楽しいクラブを目指します

25－26 会長方針

会長 相良恒久

『青少年の育成を柱に、豊かな環境づくりへの輪を広げよう』

『樹を育てるより、人を育てよう』とは？

1、クラブ理念について

わが福岡北ロータリーは創立時のクラブ理念として「樹を育てるより、人を育てよう」が掲げられました。

今の地球環境、社会風潮から考えるとき「自然（森、樹木等）を守っていこう」というテーマが余りに一般的であるのに、福岡北ロータリークラブにおけるクラブ理念での扱いの軽さ、後回し的なこのメッセージに私は入会時に違和感を持ったものでした。後日ロータリーの先輩から中国の格言にある話である。とお聴きし調べましたら紀元前5世紀前後の春秋時代

「斉」の国の宰相管仲（かんちゅう）の言行録「管子」の中に

「一樹一穫なるものは穀なり、一樹十穫なるものは木なり、一樹百穫なるものは人なり」との格言があり

その解説は「一年の計は穀物を育てよ、十年の計は木を育てよ、百年の計は人を育てよ」とありました。

中国においては3世紀前には石炭が燃料として使われ始めた記録があるそうですが、方や日本では明治維新のころ神戸に寄港した欧米人が見た港神戸の六甲山は岩山であったとの話からしても産業革命が始まっている欧米は別として中国も含めて世界の大半の国に

においてはまだ石炭が燃料として一般的ではなかったようです。古今東西を問わず施政者が課すルールとしては、木を植えても薪にできるまで十年程度は伐採を禁じていたかもしれません。秀吉の逸話にでてくる薪奉行という役職もあったぐらいですから。

時代は大きく変わりました、現代に置き換えれば 「一年の計は農産物を育てなさい、百年の計は青少年の教育とエネルギー問題を疎かにしないこと」といったところでしょうか

村口年度では福岡市郊外の里山において青少年向けのプログラムがボーイスカウトを中心として行われました。我が国においては永年森を切り開いて耕作地を拡げ、近年は住宅地を開発しますが、いつしか里山の多くが姿を消して昨今獣害が問題化しています。里山は自然ではなく人の手が入った森であり自然界と人間社会の緩衝地帯です。間伐材も活用され下草も刈り取られた里山の景観は庭園のように穏やかで心を豊かにしてくれます。先人の知恵には感心するばかりです。

25・26年度福岡北クラブが企画するロータリーデーは舞鶴公園を中心とした桜への施肥となっております。当クラブにおいては以前から松苗、桜の植樹を福岡市近辺で地区の財団補助金事業として取り組んでまいりました。今回は成木となった樹木への手当の必要性を再認識する為の企画であるかと思います。多くの会員の参加協力をお願いいたします。

2、青少年奉仕について

私どものクラブでは先にあげましたクラブ理念として他のクラブには無い青少年奉仕への取り組みを続けています。ボーイスカウト福岡第14団への支援活動です。理念の具体的な活動として創立当初よりスタートしております。北クラブが誇ってよいこの取り組みを私自身あまり特別なことと認識しておりませんでした。折角先輩が残してくれたこのレガシーを大事にして特色ある青少年奉仕を継続していくことが必要と思います。

殊に団員の子供たちはもちろんですが保護者の皆さん延いては地域社会においてもロータリーがいかに青少年の育成を大事にして活動しているかを理解していただくことが重要であると思います。

本年は2700地区第5グループに当クラブより森ガバナー補佐を送り出しております。桜の施肥活動もボーイスカウトと一緒に取り組む予定です。

まさに「・・・樹も育てようね」ということですが。ボーイスカウトの皆さんへの今後の積極

的な支援への理解がこの事業参加によりメンバーの皆さんに更に深まることを期待したい
と思います。

3、職業奉仕と四つのテスト

職業奉仕は私がロータリーに入会して学んだことの中では最も共感を以て受け入れるこ
とが出来ました。

当クラブ定款(標準定款)第5条「目的」には

『ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことに
ある。具体的には (以下抜粋)

職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値のあるものと認識し、社会に奉仕
する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。

事業及び社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。』

とあります。

定款『目的』は私たちに職業（奉仕）が持つ普遍的な意味を理解させ、日々の生活にモチベ
ーションを与えてくれます。

先ず私たちは自分たちの仕事社会にいかに必要であるかを改めて理解すること。

そのための行動基準としては、よく知られている「四つのテスト」が示されています。

以下は、私たちに馴染みあるロータリーソングの歌詞ではなく職業奉仕の基準として改訳さ
れたものです。

事業の立案・企画・実行はこれに照らしてから

1, 嘘・偽りはないか

2, 関係者すべてに公明正大か

3, 信用を高め、より良い関係を築けるか

4, 関係者すべてに有益か

分り易くはありますが、難易度は高そうです。

自らの行為をこれに照らして日々確認できるとするなら素晴らしいことか思います。

4、会員拡大とエンド・ポリオについて

ロータリーの綱領の『ロータリーの目的』は

『知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。』

奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること』（抜粋）とあります

会員を増やすことは国際ロータリー（RI）の大きな目標でもあり、とくに日本においては重要な課題です。北ロータリーや周りのクラブを見てもメンバーの高齢化および減少の問題に直面しております。

しかし私たちが暮らす地域においても、ロータリークラブがどのように社会に貢献しているかを理解してもらい、活動へ賛同して貰うことは簡単ではありません。

ことに国際貢献、奉仕となると相互理解の為の青少年交流はまだしも、他国への社会貢献にいついては宗教、政治体制、経済格差、これらによる価値観の違い。いよいよ混沌としてきている現代において非常に困難に感じられます

ロータリーは国際的な奉仕活動として 地球規模の厄災であるポリオへの戦いを長年に亘り巨額の資金をつかい、尚且つ地域を限定することなく平等、公平に取り組んでまいりました。残念ながら我が国においてはマスコミをはじめ、これらが取り扱われることは稀です。

私たちは RI・ロータリー財団を健全に維持することに関心を持つこと。その為に財団寄付へも協力していくことがまず必要であり

『エンド・ポリオ』が広く認知されることに努めて、今日まで百年を超えてグローバルな奉仕団体として一定の評価を得てきたロータリーへの理解が更に深まることでロータリアンである私たちに日々の社会活動への意欲が高まり、奉仕活動への積極的な参加の動機づけになると考えます。

先ずは 誇らしくバッジをつけましょう！

5、まとめ

最後に繰り返しにもなりますが、

当クラブの理念にあるように青少年の健全な育成は、地域において積極的に経済活動を行っている私たちにとって将来への一番の投資であること。

RLI 資料に

『「会員を勧誘する」ためには、ロータリークラブは元気があり、地域社会でよく認知され

ていること、つまり将来会員となる可能性のある人にとって魅力的であることが必要です。』と書かれています。

私どもはロータリアンとして奉仕の精神を理解し、それぞれの職業をより意味あるものにしていくことに努力し社会の発展に貢献する。これによってロータリーの社会的評価が高まり多くの理解者を得ることが出来る。

私たちクラブも新たなメンバーを得ることになり多様なメンバーによって構成されていく福岡北ロータリークラブがいよいよ魅力的なクラブになる。

たとえ**少しの成長**であっても**よいことのために手を取りあおう**

福岡北ロータリークラブの会員であることに今以上に誇り喜びを感じられるように共に歩でまいりましょう。